

## 専門学校及び大学の部

### 優秀賞

「京都国際マンガミュージアムを参考に考えた沖縄観光開発計画」

沖縄大学 人文学部国際コミュニケーション学科 4年次 橋 美由紀

沖縄には亜熱帯特有の豊かな自然、希少な固有種、個性豊かな離島、文化、歴史、城跡、伝統、料理、祭、県民性など観光の魅力となる要素はたくさんある。では日本の観光所と言われて想像する場所はどこだろうか。私は「日本の代表的な」と言うと「京都」を思い浮かべる。

私は去年、大学の提携校である京都府の京都精華大学へ留学した。理由は京都の観光を沖縄の観光へ生かす手法を学ぶためだ。留学先では京都独特のしきたりや文化や伝統に触れた。四季折々の自然に「基盤の目」と言われる街路、日本古来の歴史、関西の特徴的な言葉や「うなぎの寝床」と呼ばれる長屋、別世界を思わせるような花街、芸舞妓、友禅の染物、数えきれないほど存在するお寺に歴史人物やその場所に、京都の三大祭りと呼ばれる葵祭・祇園祭・時代祭は何度でも見物したくなる魅力がある。また京都には漫画本を数万点保存する「京都国際マンガミュージアム」があり、漫画好きの私としてはこの上ないほど胸が高鳴る環境であった。京都独特の雰囲気には毎年多大な観光客が訪れたい理由を感じる。留学先での人々は、沖縄の細かな文化を知らない私に鋭い質問を投げかけてくるため私自身もかなり勉強になった。しかし彼らと交流する中では沖縄のやや間違った知識に出会うこともたまたまあった。

とある日に四条河原町の居酒屋で友人が期間限定メニューの沖縄そばを注文した。沖縄で食べる沖縄そばとは麺も汁も肉もだいぶ異なった沖縄そばだったが、同席していた友人たちは「美味しい」と言いながら食べていた。それに対

して私は大変ショックを受けた。

美味しい沖縄そばを食べる人の反応は、あまりの美味しさにもっと目を輝かせるはずだ。

沖縄そばの鮮やかな色彩やテカリ、温度、豚骨とかつおの優しい味を愛するそばじょーぐーな私は「あきさびよーで一じなーとん」と思わず呟き、「沖縄のことをしっかり知ってもらいたい」と強く思った。

京都では「沖縄へ行きたい」「沖縄に興味がある」という声をたくさん聞いたが、修学旅行を除いて実際に行った人はかなり少ない。しかしこう言った意見から県外からの注目度はまだまだ高いことが分かる。さて、インターネット資料「平成 23 年度版 観光要覧・沖縄県」を参考にした「過去の沖縄観光の歴史」を振り返ると戦後の慰霊訪問団のお墓参り観光や 1980 年代のリゾートブーム、90 年代から 2000 年代はドラマ「ちゅらさん」や沖縄出身のアーティストが注目されてその都度観光客を呼んでいる。初めて沖縄を訪れる観光客は自然や海水浴やマリンレジャー、沖縄料理、国際通りや、沖縄文化とアメリカ文化が混在する北谷などのメジャーな観光巡りをする。またリピーターは保養・休養の目的を第一に自然観光や歴史めぐり、沖縄料理を楽しむといったそれぞれの滞在を満喫する傾向にある。しかし沖縄の観光客数はリーマンショックの影響や新型インフルエンザ、東北大震災などにより年々減少傾向にある。そして遠い沖縄を訪れるより、身近な娯楽で欲求を満たす。リピーターはともかく、若者や学生らは沖縄に興味を抱くも「あと一步の魅力」を欠いてなかなか旅費と時間を沖縄観光に費やさない。最近ではスカイマークやピーチ、ジェットスターなど格安券を販売する旅行会社も増えたが、魂を揺さぶる沖縄の感動を味わっていない人にとってはまだ先の話であり、訪れたい意欲は日常の生活に埋没している。では本当に訪れたい島観光とは何か。私は「沖縄国際マンガミ

ミュージアム（仮）」という漫画博物館を創設して沖縄観光の活性化を図りたい。

設立したい理由は京都での暮らしから生まれた。先ほど紹介した「京都国際マンガミュージアム」は廃校になった小学校を改築して2006年11月6日に開館された。現代の国内マンガ本を中心に、明治期以降のマンガ関連歴史資料、世界各国の著名マンガ本、雑誌、アニメーション関連資料等を世界最大規模の約30万点（2011年現在）を収蔵している。

京都国際マンガミュージアムのコンセプトは公民協働で地域の人に積極的に利用されるかつ漫画を通しての生涯学習や観光誘致、新産業創出などの活用を図っている。実際に訪れてみると地域の子供や年齢層の広い学生達、大人、家族、海外からの観光客などで毎日たいへん賑わい、2012年の来館者記録では24万の人が訪れている。また定期的に行なう漫画関連のイベントでは府内問わず多くの観客がやってくる。私自身も京都国際マンガミュージアムさん主催のイベントで活動させてもらい「この多くの参加者を沖縄にも呼びたい」と熱い思いがこみ上げた。

まず「沖縄国際マンガミュージアム（仮）」の建設だが、沖縄の自然を壊さないように以前使用されていた校舎や施設を利用したい。そして沖縄関連の漫画や沖縄出身の漫画家、今まで放送されてきた沖縄のアニメーションなどを中心に研究、展覧、保管の博物館的要素と来館者が閲覧できる図書館的要素を取り入れた文化施設にしたい。沖縄の漫画カルチャーを基盤に日本・海外の漫画や漫画雑誌、アニメーションも積極的に取り入れていく方向だ。さらに漫画関連のイベントを行うことで漫画読者の高い関心と迅速な行動、そして沖縄を観光してもらう機会を作る。来館者から頂いた入場料は、沖縄の珊瑚や森林を育て

るといった自然育成の資金にも当てたい。これは沖縄の観光発展と地域育成に繋がる取り組みともいえないだろうか。2013年現在、日本のポップカルチャーは世界的に注目されて多くの日本人ばかりか外国人にも漫画好きが急増している。私の提案する「沖縄国際マンガミュージアム（仮）」を設立し漫画関連のイベントを行うことで「漫画文化施設の利用＋沖縄観光」が幅広い年齢と国内外を問わない人々、そして若者の観光客を呼び込めると考える。「沖縄国際マンガミュージアム（仮）」が若者の沖縄来訪のきっかけをつくり、うまくいけばリーダーとなる。このサイクルをどんどん繰り返していけば、沖縄観光がもっと発展するだろう。この案は一時的な観光客の呼び込みではなく、地域に根差した施設かつ、国内外の観光客が数年先も沖縄を訪れに来る文化施設となっている。観光客への細やかな配慮を取り入れるなら、沖縄の観光をサポートする総合観光案内所を設けることや、お年寄りや車いすに乗った方々のバリアフリー設備の充実を考えることも欠かせない。またコスプレの疑似体験と言うことで沖縄の民俗衣装のレンタル・撮影・散歩プランなど加われば地元民にも観光客にも大きな影響を与えて、沖縄観光もよりいっそう魅力的になるだろう。

観光発展の案はまだまだ尽きないが、地域に愛されて国内外を問わない観光客が訪れる文化施設を作ることが、沖縄観光を持続させる大事な要素になるだろう。そして「沖縄国際マンガミュージアム（仮）」の来館をきっかけに、沖縄本来の自然や伝統、文化を観光客に楽しんでもらいたいことが私の変わらない意見である。以上で私の意見発表を終わりとさせていただく。ここまでお読みくださり心から感謝いたします。